

第45回  
シリーズ探訪・探求

訪れたいまち

徳島県三好市



## 歴史・文化や伝説を継承した

### 景観美に癒やされるまち

#### 三好

四国のほぼ中央に位置し、四国一広大な面積を有している三好市。平成18年3月、三野町、池田町、山城町、井川町、西祖谷山村、東祖谷山村が合併し誕生した。合併後も、地域独自の自然や文化、生活をお互いに尊重しまちの魅力を高めている。多様な魅力に溢れるまちは、今、国内外から注目を浴びており多くの観光客が訪れている。

#### 歴史的風致の

#### 維持向上に向けて

古くから交通の要衝として、また県西部での社会、経済、文化、観光の中心として発展してきた三好市には、歴史的建造物が多く残されている。また、平家伝説などの伝説や伝統文化、祭礼も多く伝承されており、有形・無形の文化財が一体となって人々の暮らしに受け継がれている。しかし、歴史的景観の維持管理には多くの費用と手間がかかること、高齢化や人口減少で民俗芸能や伝統技術の担い手が不足していることにより、歴史的建造物や、歴史や伝統を反映した人々の生活が失われることが危惧される状況にある。

観光立市を推進している三好市は、こ

うした歴史的風致を維持向上し個性豊かなまちづくりに生かすため、「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（通称：歴史まちづくり法）」に基づき「三好市歴史的風致維持向上計画」を作成し、平成22年に国の認定を受けた。

この認定計画に基づき、県指定有形文化財である平家屋敷阿佐家住宅の保存修理事業を行った。これは以前、阿佐氏が所有していたが、築後150年以上が経過し個人による維持管理が困難な状態にあったため、市が建物を購入し公有化して解体・復元工事を行う



阿佐家住宅

痕跡や資料などに基づき建築当初の状態に復元。昨年4月から一般公開している。



### 落合集落

江戸中期から昭和初期に建てられた民家や畑が急斜面に広がっている。集落内の高低差は約390m。現在、約80人が暮らしている。

### 桃源郷祖谷の山里 茅葺き民家ステイ

東洋文化研究家のアレックス・カー氏がプロデュース。歴史と伝統の趣を残しながら、内部には最新設備が備わり快適に過ごせる。茅葺きの高屋根は天井部分が存在せず、昔はタバコの葉を乾燥させるための場所だった。



三好市教育委員会 文化財課  
主査 宮田 健一さん

た。ほかにも、国の重要伝統的建造物群保存地区である落合集落の空き家8棟を市が無償で20年間借り上げ、その空き家を宿泊できる茅葺き古民家「桃源郷祖谷の山里 茅葺き民家ステイ」に改修するなどさまざまな事業を行っている。

また、伝統芸能を継承するため、地元の小生に伝える活動なども行っている。一方、存続が難しくなってしまう伝統芸能を映像に記録・保存している。

三好市ではここ数年外国人観光客が急増している。平成28年、市内にある5つの主要ホテルに宿泊した外国人は、前年比50%増の約1万4800人で、初めて年間1万人を超えた。特に香港から来る個人の観光客が多く、自国にはない大自然や周りの人がまだ行っていない地方を求め、LCC（格安航空会社）を使って気軽に訪れている。

### 秘境でのおもてなし

「国から認定を受けたことにより、住民がまちを誇りに思うようになりました。そして観光客が増加し、住民が『おもてなし』を意識するようになったり、景観の保全にも関心を持つたりするようになりました。例えば、落合集落では屋根の色を落合カラー（焦げ茶）に統一する取り組みが進められています。今後も歴史的風致の維持向上のための事業を続けていきたいと思っています。まちづくりの結果はすぐに出ないことも多いですが、時間をかけて続けることが大事だと思います。」

なってしまう伝統芸能を映像に記録・保存している。

三好市教育委員会文化財課の宮田健一さんに歴史まちづくりの効果や今後の取り組みについて伺った。



### 琵琶の滝

平家落人が京の都をしのび、この滝で琵琶を奏で、慰めあっていたことから名付けられたと伝えられている

## もうひとつの平家伝説

「平家物語」では、1185年3月の「壇ノ浦の戦い」に敗れた平氏一門の武将たちは覚悟を決め海に入水し、幼い安徳天皇も祖母に抱かれて西の海に身を投げたと記されている。また、平清盛の甥・平国盛も源氏の武者二人を道連れに海に沈んだと記されている。

しかし、壇ノ浦で亡くなったといわれる安徳天皇も国盛も、実は影武者だった！と祖谷地方では語り継がれている。

「壇ノ浦の戦い」の1カ月前の屋島の戦いで敗れた平国盛の一行は、幼い安徳天皇をお守りしながら、祖谷の地にやって来て、後に阿佐名に住居を構え、平家再興を図っていたといわれている。

国盛の死後も子孫は代々この地に住んで阿佐を姓とするようになった。阿佐家には現在も「平家の赤旗」と呼ばれる大小二流の旗などが所蔵されている。



高さ14mでスリル満点！

### 祖谷のかずら橋

平家一族が、追っ手から逃れるためにいつでも切り落とせるようにとシラクチカズラという植物で造ったといわれている。意外と広い橋床の木の間から、14メートル下の渓谷を望め、スリルを味わうことができる。国指定重要有形民俗文化財。3年ごとに伝統的な架け替えが行われる。

## 地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（通称：歴史まちづくり法）

わが国固有の歴史的建造物や伝統的な人々の活動からなる「歴史的風致※」を生かしたまちづくりを支援するため、平成20年に制定。同法に基づき、市町村が作成した歴史的風致維持向上計画を国（文部科学省、農林水産省、国土交通省）が認定することで、法律上の特例や各種事業により市町村の歴史まちづくりを支援する。

※地域におけるその固有の歴史および伝統を反映した人々の活動と、その活動が行われる歴史上価値の高い建造物およびその周辺の市街地とが一体となって形成してきた良好な市街地の環境

そばの実を石臼で挽いてそば粉にするところから、打って切るところまで、祖谷そば作りの全工程を体験できる



古式・そば打ち体験塾 都築 麗子さん  
民謡「祖谷粉ひき節」の唄名人でもある。外国人観光客は都築さんが唄っている姿を動画で撮影し、帰国後に自慢しているそう。



祖谷そば  
つなぎが入っていないので、  
麺が短くて太いのが特徴



そば打ち後は、打ち立てのそばと一緒に、祖谷の食材を使った料理も堪能できる。  
(左) 石豆腐(険しい山道を運んでも崩れないようにと考えられた硬めの豆腐)や、ごうしいも(祖谷地方のやせた急斜面の土地で作られているじゃがいも)など。  
(右) 鹿肉や祖谷こんにやくの唐揚げと山菜の天ぷら。

三好市山城町には平地がほとんど無く崖などの危険な場所が多いため、親は子どもにもそこに現れる妖怪の話をしなから、危険な場所に近付いたり山の神を荒らしたりしてはいけないことを暗に諭してきた。「四国の秘境 山城・大歩危妖怪村」村長の宮本敬さんも、「お盆は、えんこ(河童)に引つ張られるから川に行くな」と親に言われて育ったという。宮本村長の叔父・下岡昭一さんが「山城には何も無いというけれど、自然がいっぱいあり空気も水も綺麗だし、何かやろうよ」と声を上げ、平成8年、妖怪村の前身となる「藤川谷の会」を発足し、藤川谷川の環境美化活動を行っていた。その活動中に、山城町が児啼爺の発祥地であることが分かり、平成13年に石像を建立。平成20年、藤川谷の会をはじめ14団体を構成員に「四国の秘境 山城・大歩危妖怪村」を結成し、妖怪モニユメントの作成や

「地元の小学生が山城町に伝わる妖怪をAR(拡張現実)で紹介するスマートフォン無料アプリ『山城妖怪めぐり』を作りました。妖怪モニユメント付近でカメラをかざすと妖怪のイラストが浮かび上がり、さらに近づくとその妖怪が音声で語りかけてくる仕組みになっています。その子どもたちに妖怪伝承を語り継いでほしいと思っています」(宮本村長)。  
今後の取り組みについて、宮本村長に伺った。  
「現在22体ある妖怪モニユメントを、四国八十八カ所霊場に倣い、88体に増やしてスタンプリーを開催したいと思っています。また、特徴がある巨木やそれにつながる伝説も多いので、巨木と妖怪を巡

観光客の目的がモノからコト消費に変わってきている中、「ここにはさまざまな体験メニューや観光ガイドツアーが用意されている。」  
交通の便が良いとはいええず秘境とも呼ばれる祖谷地方で、「古式そば打ち体験塾」を開いている都築麗子さんは、古式そば打ちや着付けなどの体験メニューを提供して、外国人観光客からの人気も高い。外国人観光客は、知人からの口コミのほか、SNSやYouTubeで情報を入手し、レンタカーやタクシーを利用して訪ねて来る。  
外国人の応対に尻込みしてしまう日本人

人も多いが、「ここでは、外国人にも日本人にも同じおもてなしをしています。言葉が違っても、ジエスチャーと簡単な英単語でほとんど通じます」と都築さんは言う。  
「外国人観光客が喜ぶ事をしたと思い、近所の廃校を利用して着付けを始めました。次に、着物を着るなら抹茶も喜ぶだろう、琴も」と体験メニューが増えたいきました。さらに、かごに乗ったら喜ぶだろうなと思い、地元の人にかごを作ってもらい、かごに乗る体験も追加しました。地元の人も協力してくれて、提供する側も楽しんでます」(都築さん)。  
新しい体験メニューを考えているか何つ

### 妖怪伝承を生かした まちづくり



四国の秘境 山城・大歩危妖怪村 村長 宮本 敬さん

妖怪祭りの開催など、妖怪を生かしたまちづくりに取り組んでいる。平成22年には道の駅大歩危内に、「妖怪屋敷」をオープンした。  
各家に聞き取りを行った中、町



道の駅大歩危でしか手に入らない大歩危妖怪村グッズ



**妖怪祭り**  
毎年11月に開催。昨年の妖怪行列には、友好を深めている台湾妖怪村などからも妖怪が参加した。

見所が多く点在しているので泊だけではもったいない。連泊して、都会にはない魅力に触れて癒されてほしい。

桃源郷のような風景や、自然と共生した暮らし、今も数々の伝説・伝承が残る三好市は、神秘的な雰囲気があり、多くの観光客が魅了されるのとなすける。

●  
●  
●  
●  
●

るツアーも考案中です。山城には何も無いと思っていましたが見方を変えると面白い物が見え、深く追求すればするほど面白さが増していくと感づいています。



**妖怪屋敷 (道の駅大歩危)**  
約70体の妖怪が人形やパネル、映像で紹介されている



**妖怪モニュメント**  
「妖怪街道」と名付けられた県道沿いに設置されている



祖谷溪



**ひの字溪谷**  
蛇行する祖谷川の流れがひらがなの「ひ」の字に似ているところから、この名が付いたといわれる

**小便小僧**  
祖谷溪を見下ろす200mの断崖には、かつて子どもや旅人たちが度胸試しをしたという逸話を銅像にした小便小僧の像が立つ



大歩危・小歩危



吉野川沿いの約8kmの溪谷。大歩危(写真左)の下流3kmが小歩危と呼ばれる。岩肌は、およそ1~2億年前に海底深くで作られた地層が、隆起と吉野川の浸食で偶然地表に姿を現したものだ。大歩危は国の名勝天然記念物にも指定されている。溪谷美は、遊覧船やラフティングで川の上からも楽しめる。昨年10月にはラフティング世界選手権が開催された。

うだつのまちなみ・  
阿波池田うだつの家たばこ資料館

池田には、交通の要衝として、また、葉タバコなどの集積地として発展したうだつ<sup>※</sup>のまちなみが残っている。そのまちなみの中にある、幕末から明治にかけて繁栄した「たばこ製造業者」の旧住宅がたばこ資料館として公開されている。



※隣家との境界に取り付けられた土造りの防火壁のこと。これを造るには相当の費用がかかったため、「うだつ」の豪華さが富や成功の象徴であった。